

シラホシハナムグリの兵庫県下での分布

(兵庫県甲虫相資料・206)

高橋 寿郎

かつて戦前シロテンハナムグリ *Protaetia orientalis submarmorea* (Burmeister) とシラホシハナムグリ *Protaetia brevitarsis* (Lewis) が混同して取扱われていた時代があり、1937年加藤正世博士がこの両者の違いを指摘され (昆虫界 Vol. 5, No. 43, p. 619-620) (この報文も若干不十分の点があるが)、この報文に刺激されてからその当時この両者の調べが割合と各地でおこなわれたようである。兵庫県下でも調査されたと思われるが両者に関しての分布に就いての報文はほとんど無かった様に思われる。筆者は神戸市内の烏原貯水池畔で調査した結果を発表した (兵庫県博物学会々誌 No. 19: 85-87, 1940)。その当時の県下のシラホシハナムグリの記録は之以外には安谷英也氏が高取山を記録されたもの (昆虫界 Vol. 8, No. 73: 192-193, 1940) がある位であった (ただ1901年に大上宇一氏の揖保郡と言うのが之がシラホシハナムグリを意味しているのかシロテンハナムグリを意味しているのか良くわからない。また記録はしていないが米谷正司氏から氏自身住吉で採集された2♂、24-VII-1935標本を頂き現在も保管している。即ち当時住吉にもいたのである)。

終戦後ソ連から帰国してすぐ烏原貯水池畔に出掛けて見たが戦争中の荒廃 (燃料不足等で樹を無闇に切ってしまったこともあった様である)、さらには開発の影響でシラホシハナムグリの姿は遂に見ることは出来なかった。神戸市では戦後採集出来ていないし記録も妙法寺というのがある位である (烏居、1960)。

筆者自身は戦後一の烏居で採集している (2♂、22-VI-1952、2♂、17-VI-1953) 仲田元亮氏も川西市黒川、笹部、川辺郡猪名川町等で記録しておられる (筆者戦前多田で1♂採集している4-VIII-1941)。氷上郡下からは山本義丸氏が比較的多く採集されその内柏原、黒井、市島で採集された標本 (4♂、1♀) を御恵与下さった。

出石郡出石町からは高橋 匡氏の記録がある (1963, 1981)。また西宮市岡田山の記録 (1974) も注目してよい。

淡路島では堀田 久氏が洲本市先山を記録された後1982年には田中 稔氏が津名郡東浦町浦の池畔の柳に多くいることを記録された (18♂、23♀、9~13-VIII-1981、M. Tanaka leg., Parnassius, No. 26, p. 12) (田中氏の御好意で前記の採集品の内2♂1♀を御恵与頂いて現在も保管している)。

さらに1986年7月14日三木市口吉川で蜂谷幸雄氏と調査に出掛けた際飛翔中のシロテンハナムグリに混じてシラホシハナムグリの1♂を蜂谷氏が採集された(標本筆者保管)。このあたりいわゆる播磨丘陵地帯で森林の様なもの無く平凡な農村地域であるがコナラ、クリ、ヤナギの樹は割合と多く見られる地域でもあった。このあたりに本種がいることがわかって大変喜んでいる。

今迄のシラホシハナムグリの県下での記録を地図に示すと図Aの様である。これでおわりの様に県の山地帯と言うのかやや中央部から西一帯にかけての記録が全く見られない。大変妙な具合の分布をしている。恐らくこの地域にもいると思われるのだが、この方面での調査をやって見たいものだと考えている。また記録があれば是非御教示頂きたいものである。シロテンハナムグリに混じて産するので案外無視されているのではないかと思ったりしている。

(最近石田正明・青木 隆両氏はシロテンハナムグリとシラホシハナムグリの区別を図を入れて解説しておられる。SAIKAKU 2:8-9,1986)。

(JAN.1987)

[追記] 2月13日(1988)会員 中川邦隆氏の来訪を受け話がたまたまこのシラホシハナムグリに及んだがその際同氏が明石公園内でキョウトアオハナムグリを調べに行かれた時数匹採集出来たとの貴重な情報を御知らせ頂いた(1♂4♀、1987年6月27日。樹液に来ていた)。新しい産地として記録しておくと同時にこの記録を提供下さった中川氏に御礼申しあげたい。



図A.

兵庫県におけるシラホシハナムグリの記録地帯